

令和8年度 学校経営計画書

かほく市立高松中学校
校長 山崎 勝則

1 経営理念

少子高齢化、価値観や生活習慣の多様化、情報化や技術革新の加速化は、人間生活を質的に変化させつつある。学校教育においても学力・体力の向上、ネット社会での生き方、いじめや不登校への対応、働き方改革等、解決すべき多くの課題を抱えている。

このような状況の中、未来社会を生きる子どもたちは、たくましく生き抜いていくために、様々な力を身に付ける必要がある。それは、複雑な社会情勢の中で自分を見失わず、他者と理解し合い、柔軟な発想をもち、周囲と共存しながら、自らの将来を切り開いていく力であると考えている。

こうした中、校訓の「責任を果たせ」の自分の行動に責任の持てる大人への成長という願いや県やかほく市の基本理念を踏まえ、「4つのシンで真の学校」を経営理念として、信じあえる集団の形成・深まりのある学びができる授業づくり・新しいことへの挑戦する風土の醸成・落ち着いて学校生活を送れる清らかな環境づくりを組織的に実践していきたいと考えている。

2 教育目標

「知性と創造力に富み、心身ともにたくましい生徒の育成」

3 中・長期経営目標

(1) めざす生徒像

- ① 自分や友達を大切にし 自信あふれる生徒
- ② 自ら進んで 学びを深める生徒
- ③ 失敗してもあきらめず 挑戦し続ける生徒

(2) めざす学校像

① 安全・安心な職員室の醸成

- ・ 働き方改革の推進

取組等の必要性を見極め、スクラップ&ビルドにより実効的な取組を遂行する。

- ・ 教職員の協力協働

安心して自分の思いや意見が言える安全・安心な職員室を醸成する

- ・ 整理整頓された職場環境

掲示するものを取捨選択しシンプルで学びに向かいやすい学習環境を整える。

② めざす教師像の育成

- ・ 多様性を受け入れる教師

安全・安心な風土の醸成を図り、一人一人の生徒を大切にする。

- ・ 高い力量を持った教師

生徒の自立や対話的な学びを育む生徒指導や学習指導ができる。

- ・ 総合的な人間力を備える教師

社会情勢や保護者の思いを的確に感じ、様々な考え方や相手を理解することができる。

③ 期待する家庭像の確立

- ・ 規律ある規則正しい家庭生活
- ・ 安全・安心な家庭の醸成
- ・ 学校との連携

4 学校の現状

(1) 生徒・保護者の現状

- ・ 明るく元気で意欲的な生徒が多い
- ・ 素直で従順な生徒が多い
- ・ 学校への依存傾向が高く自己解決力が低い
- ・ 配慮が必要な生徒が通常学級に混在している
- ・ 家庭教育力に偏りが見られる

(2) 教職員の現状

- ・ 石川県教育委員会より研究推進校の指定を受けたこと、教科部会を充実させたことより、職員の方向性が揃い、授業改善の意識が見られる。
- ・ 授業をはじめ、教育活動全般において、生徒の良さを認め、伸ばそうとする指導に努めている。
- ・ 学年、教育相談員との協働（ケース会議の実施）やSSR、外部機関との連携から、組織的に不登校（傾向）生徒、特別な支援を要する生徒に対応している。
- ・ 年齢構成においては、若手が多く、経験や教育スキルの伝承が課題である。
- ・ 職員平均の時間外勤務時間は令和6年度後期より大きく減少が、依然として80時間超の教員がいる。

(3) 学校全体の現状

- ・ 全体的に落ち着いており、温かな人間関係（生徒間、生徒－教師間、教師間）を土台として教育活動が行われている

5 カリキュラム・マネジメント

(1) カリキュラム・マネジメントの柱

「自ら学び 豊かに表現する 生徒の育成」

(2) 現状

- ・ 自分の思いがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しようとする生徒の割合が高い。
- ・ 学力調査等の結果において、書かれた内容に対して自分の考えを示すことや、資料の読み取りや要約することに課題が見られる。

(3) 取組内容

① 教科横断的な視点

- ア カリ・マネの柱を実現するために、生徒の育てたい3つの力「問題をみつける力」「情報を収集し分析する力」「分かりやすくまとめ表現する力」を定め、カリ・マネマップや教科の年間計画に位置付けることで、学校の教育活動全体を通して育成していく。
- イ 総合的な学習の時間、生徒会活動を中心に、各教科での学びを生かし、生徒が表現する機会を設定する。
- ウ 10月に学習成果発表会を実施し、高松中学校区3校共通のカリキュラム・マネジメントの柱「表現力の育成」を育んだ生徒の姿を公開する。

② PDCAサイクルの確立

- ア 生徒アンケート、教員アンケートの実施（7・12月）
- イ 校内研修会、教科部会を充実させ、生徒の実態から「表現力を伸ばす授業実践」について検証する。

③ 人的・物的資源の活用

- ア 総合的な学習の時間を主とした、外部人材を活用した学習活動の計画的な実施
- イ 効果的なプレゼンテーションの方法等、表現力スキルを伸ばす機会の設定

(4) 日程 (年間計画)

- ・ 7月、12月に実施する生徒アンケート、教員アンケートの結果より分析、検証を行う。7月の検証結果は後期の教育課程に、12月の検証結果は次年度の教育課程に反映させる。
- ・ 10月に実施する学習成果発表会、2学期に実施する各学年の探求学習発表会を、探求学習に関わっていただいた地域の方、外部の方、保護者に公開する。発表会での生徒の姿について意見・感想をいただき「学び方」について検証する。

(5) 組織

- ・ 教科部会と学年会が連携し、各教科を総合的な学習の関りについて協議し、それに合わせてカリ・マネマップや年間計画の見直しを行う。また、職員会議等の場で共有し、報告する。

6 短期 (今年度) 経営目標と取り組み内容

(1) めざす児童像達成のため

① 信：信じあえる集団

【具体策】教師⇄生徒 生徒⇄生徒 教師⇄教師

ア 生徒指導：高中カードによる自己肯定感の高揚

- ・ 生徒一人一人のよさを引き出し、よりよい人間関係を構築し、自己肯定感を高める

イ 生徒指導：いじめ撲滅宣言の掲示と実践

- ・ 組織的にいじめを許さない風土を醸成する

ウ 学習指導：失敗を恐れず表現できる場の設定

- ・ 一人一人の生徒を把握し、チームで困り感に寄り添いながら他を肯定する心を育成する

エ 生徒会：あいさつ運動の活性化

- ・ 時・場・礼を意識し、自信をもって学校生活を送れるようにする

② 深：深まりのある学び

【具体策】学習指導

ア 教科の見方考え方を意識した課題の提示

- ・ 課題に対して自らの立場を明確に持つ

イ 意欲的で深まりのある学習活動

- ・ 自分の考えを比べたり、つなげたり、広げたりする授業を展開する

ウ 学びを確認できる振り返り

- ・ みんなで学ぶ良さを認識し、次の学習に生かすことができるようにする

③ 新：新しいことへの挑戦

【具体策】

ア 地域への貢献 (教科や行事を通して)

- ・ 地域の一員であることを自覚し、積極的に社会へ貢献しようとする態度を育む

イ 地域人材の活用 (学校コーディネーターを中心に)

- ・ 地域を活用した授業を通して学びを深める

ウ 生徒会：新しい取組の創出

- ・ 前年踏襲ではなく意味や効果的な取組を行う

④ 清：清らかな環境

【具体策】「市で最も古く 美しい中学校」

ア 生徒指導：時・場・礼を意識させた指導

- ・ 時・場・礼を意識し、落ち着いた学校生活を送れるようにする

イ 健康安全：無言清掃の徹底

- ・ 清掃に誠実に取り組み、学びやすい環境を維持する

ウ 掲示の見直しとエバーサルデザイン化

- ・ 生徒の学習環境を、教職員が積極的に整える

(2) めざす学校像達成のために

① 安全安心な職員室の醸成

ア 働き方改革の推進

- ・ 負担が偏らないように、スクラップ&ビルドで取組の精選，会議の効率化に努める

イ 教職員の協力協働

- ・ 安心して自分の思いや意見を言える職員室を醸成し、職員間の連携を高める

ウ 整理整頓された職場環境

- ・ 学びやすく働きやすい環境をつくる

エ ホームページやメール等を活用し、地域や保護者と連携する。

- ・ ホームページやメール等を活用し、地域や保護者と連携する

② めざす教師像への育成

ア 多様性を受け入れる教師

- ・ 個々を肯定的にとらえ、挑戦を互いに応援する風土の醸成を図る

イ 高い力量を持った教師

- ・ 教材研究を深め、生徒が「わかる・できる」といった達成感のある授業を構築する

ウ 総合的な人間力を備える教師

- ・ 社会情勢や保護者の思いを的確に感じ、様々な考え方や相手を理解する

③ 期待する家庭像

ア 規律ある規則正しい家庭生活

- ・ 規則正しい家庭生活を送り、健康な体を維持する
- ・ 自分を律し、ルールを守る態度を身につけさせる

イ 安全・安心な家庭の醸成

- ・ 安心して自分の思いや意見を言える家庭である

ウ 学校との連携

- ・ 学校と連携して生徒のより良い成長を促す

7 共通実践

学習指導

生徒の学習状況をしっかり見とり、的確な支援をする

生徒指導

生徒を肯定的に受け止め、伸びや良さを広げる